

日本産業衛生学会九州地方会ニュース

産衛九州

発行所 日本産業衛生学会九州地方会
〒807-8555
北九州市八幡西区医生ヶ丘1-1
産業医科大学
産業医実務研修センター
TEL (093)691-7171
FAX (093)692-4590
発行責任者：地方会長 大久保利晃

(題字 倉恒匡徳 筆)



別府湾の朝

地方会長退任のご挨拶

日本産業衛生学会九州地方会長 大久保 利晃

(産業医科大学副学長)

早いもので、私が地方会長に就任してから3年近くがたちました。先日の選挙で次期地方会長として熊本大学の二塚教授が選出されましたので、私の任期も余すところ約3ヶ月です。この3年の本地方会にとって一番大きな事業は第73回学会総会の開催で、これはお蔭様で会員皆様の絶大なご支援により、大成功を取ることができたと思っております。また、残念なニュースとしては、長い間本地方会長をお勤めいただいた、石西伸先生が平成13年10月にご逝去されたことです。

さて、就任直後の本ニュースに書かせていただいたご挨拶を読み返してみますと、我が学会の特色の一つである地方会をどう活性化させるかについて触れております。産業保健は、地域との関わり自体が活動基盤の一つであり、地方会の活性化は直ちに学会全体の発展に繋がるという特徴を指摘したわけです。また、最近の九州地方会の傾向として、会員の福岡県への偏在を指摘し、地方会運営上も何ら

かの工夫が必要なことも述べております。

任期が終わりに近づいた今、この間のことを振り返ると、これらの問題点は殆んど解決できていないといわざるを得ません。ただ、最近では医師会の先生方を中心に産業医活動に対する関心が急速に高まっております。将来は、医師会活動との連携を深めることにより、地域を基盤とした産業医活動が活発になることが期待されます。今後は一会員として、このような新しい動きに合わせ、産業保健推進センターや地域産業保健センターを通じて、地域を基盤とした小規模事業場を対象とした産業医活動の活性化に努め、本学会が我が国産業保健の発展のため果たす役割に、少しでも寄与できるよう頑張りたいと思います。

任期中にいただきました地方会員からのご支援、ご協力に深く感謝申し上げますとともに、新会長の下、ますます本学会が発展するよう今後とも力を合わせてゆきましょう。

新役員のご紹介

平成13年9月28日に行われました日本産業衛生学会ならびに同学会九州地方会の平成14-16年度の役員選挙の結果、下記の方々が新役員に選出されましたので、ここにご紹介します。

日本産業衛生学会役員

理事（3名） 伊規須英輝 二塚 信 田中 勇武

評議員（63名）

福岡県

嵐谷 奎一	伊規須英輝	池田 正春	畝 博	大久保利晃	織田 進
川本 俊弘	神代 雅晴	児玉 泰	酒井 淳	柴戸 美奈	高木 勝
高田 和美	高橋 謙	田中 勇武	田中 雅人	内藤 正子	永田 頌史
永田 耕司	成松 勇人	西 雅子	服部 泰	馬場園 明	八谷百合子
日笠 理恵	日野 義之	東 敏昭	福光ミチ子	藤代 一也	藤原 直子
舟谷 文男	保利 一	堀江 正知	寶珠山 務	松田 晋哉	松岡 雅人
の場 恒孝	森本 泰夫	森中 恵子	大和 浩	吉村 健清	

佐賀県

市場 正良 友国 勝磨 渡辺 良子

長崎県

竹本泰一郎 本山 史子

熊本県

上田 厚 滝川 恵子 原田 幸一 二塚 信 宮北 隆志 本川 真弓

大分県

青木 一雄 青野 祐士 後藤典希子 三角 順一

宮崎県

今里 元輝 加藤 貴彦

鹿児島県

青山 公治 唐鎌 ミキ 松下 敏夫

沖縄県

有泉 誠 山城 愛子

九州地方会役員

会長（1名） 二塚 信

理事（13名）

有泉 誠	伊規須英輝	大久保利晃	加藤 貴彦	川本 俊弘	竹本泰一郎	田中 勇武
友国 勝磨	東 敏昭	二塚 信	福光ミチ子	松下 敏夫	三角 順一	

地方会長の就任にあたって

二 塚 信 (熊本大学公衆衛生学教室 教授)

此の度、伝統ある九州地方会長に選任されました。全力を尽して頑張りますのでどうぞよろしく願い申し上げます。配慮の行き届いた名会長の久保利晃教授の後をひき継ぐことになり、その責任の重さを噛みしめています。

熊本では、昭和53年から59年まで、野村 茂先生が会長で私が幹事を引き受けさせて頂いた経験があります。昭和53年といえば産業医科大学が創設された頃で、地方会の規模も当時に比し3倍増し、関東、関西地方会に次ぐ3番目の会員数を擁する今日、まさに隔世の感があります。

私の任期の間には懸案の定款改正が行われることとなります。これにより学会の組織の大変革がなされます。地方会がこれにうまく適応してソフトランディングすることが必

要です。私に課された最大の宿題だと考えています。

また、平成14年10月には熊本で産業医・産業看護全国協議会が小山和作企画運営委員長のもとで開催されます。地方会の皆様のご支援、ご協力を改めてお願いする次第です。

大学は独立行政法人化へ向けて変革の時代を迎えています。企業はかつてないデフレスパイラルの状況のなかで、安全衛生活動にも影響が及んでいます。

地方会の活動は、各県の緊密なネットワークと各職種にまたがる緊密なチームワークに支えられて活性化するものと信じます。

会員の皆様方のご支援を切にお願いして、地方会長就任のご挨拶と致します。

理事就任のご挨拶

伊規須 英輝 (産業医科大学産業生態科学研究所 所長)

日本医師会認定産業医が全国で5万人に達し、九州のみに限っても6,000人をこえたことが先日の記念誌(日本医師会:日本医師会認定産業医5万人達成記念誌)で報じられています。産業医科大学で開催されている「夏期集中講座」は、同認定を得るための恐らく最も効率のよい課程の1つでしょうが、産業医科大学構内にいる者は、毎年文字通り全国各地から多数の受講者が来学されるのを目にしています。本年分についてもすでに受講登録者数360余をかぞえています(<http://ohc.med.uoeh-u.ac.jp/index-j.html>)。

また、一昨年から九州医師会医学分科会(産業医学会)では、日本産業衛生学会九州地方会教育講演が始まりました。平成13年(10月21日)は、福岡天神エルガーラ大

ホールに約300名の受講者を集め、午前9時30分から午後5時近くまで熱気あふれる講演会が開催されました。

このように、実地医家を中心に産業医学への関心が非常に高まってきたことを実感します。

しかし、一方、産業医学専門医(日本産業衛生学会専門医)となると、制度発足から比較的日子が浅く、5年間の修練を要することもあって、その総数は130に達していません。急速に広がった産業医学の実践レベルを維持し、より高めるためにも、すぐれた産業医学専門医の育成(再教育)はきわめて重要と考えます。今後これに対し、より体系的対応が必要になると思われます。これらについて皆様とともに努力してまいりたいと考えています。

日本産業衛生学会指導医紹介

産業医学の教育について

九州社会医学研究所

舟越光彦 (指導医登録番号1030)

今回、指導医の認定を受け執筆の依頼を受けましたので、産業医学の教育について感じることを述べたいと思います。

私は、総合病院の中で職業病の診療、産業医活動を担当している関係で、初期研修医の産業保健指導を行っています。大半は臨床医を志す医師を対象としたものですが、担当する患者を診るとき、患者の従事した仕事を聞き取ることの大切さを理解することを目標に取り組んでいます。現場での学習を重視し、職場巡視に参加し職場環境の把握や改善のための考え方等を学んでもらっています。

こうした臨床医の教育を始めたのは、職業性疾患も古典

的な職業病から労働関連疾患へ変化しており、今まで以上に臨床医の労働衛生への理解が求められ、産業衛生を担当する我々との連携も大切だと感じたからです。実際、私の勤める病院の成人喘息患者の職歴を調査すると約7%の患者さんが強く職業喘息を疑われ、少なくない職業喘息の患者さんを見落としていたことを知らされました。

救急や入院患者の診療に追われる研修医に対して十分な時間を作るには困難な面も多いのですが、これからの学会の指導医に求められる新たな役割として内容を充実させながら指導にあたっていきたいと考えています。

女性会員の声

産業保健活動に係わって思うこと

(株)琉球銀行 普久原 阿津子

(平成12年度全国労働衛生週間表彰沖縄県労働基準協会会長賞受賞)

産業の場で働くようになり、今年で9年を迎えます。

事務職として働いていた私が、会社の健康診断で保健婦から指導を受けた事をきっかけに針路変更を決心し、看護学校へ進学。保健婦資格を得てラッキーにも第一希望としていた産業保健婦として、現在の職に就くことが出来たのが9年前の事。

看護学校では予想以上に沢山の事を学んだのですが、実務に就いてからは更に学ばされる事、感じた事が数多くあります。

沖縄県の産業保健の歴史が浅い事、係わる産業医も少なかった事、又、私が看護学校で学んだ保健学は、地域の高齢化に対する学問が中心で、産業保健の講義や実習は実に僅かな時間だった事。

そんな状態で産業保健活動をスタートさせたのですが、当時の銀行はバブルの下降期であったとは言え、道理が通れば物品の購入や、健康事業の実施等、何でもスムーズに出きた時期でした。

間もなく「リストラ・転身支援・能力給」などと耳慣れ

ない言葉が使われ始め、働く者の環境が著しく変化し、最近では「過労死・自殺」などの問題も新聞を賑わすようになり、保健活動も難しい場面を迎えるようになって来ています。

このような背景からか、高齢者の受け皿づくりを優先していた国の施策が、この頃は働く者の健康にも力を入れて来た事が感じ取れます。

また、企業では「健康管理」や「メンタルヘルス」等の話題になると、『専門家を担当者として一任する』という考え方が一般的なのですが、私は今こそ「組織で産業保健を活用する時代」なのだと考えます。

さらにそれを実践する職員一人ひとりのセルフケアと、それをまとめる組織で、相互が理解し合って初めて、産業保健活動の進展につながるということも痛感しています。

新しい時代を迎え、保健職として、「どの様な保健活動が望まれるかを的確に捉え、組織や産業医と上手く係わり、働く人が心身共に健康で働ける」よう援助できたらと思うこの頃です。

研究会・研修会その他案内**○平成14年度日本産業衛生学会九州地方会開催のご案内**

日 程：平成14年度6月14日(金)～15日(土)

場 所：鹿児島県医師会館（JR西鹿児島駅前）

（鹿児島市中央町8-1 TEL：099-254-8121）

演題等の締切日：①一般演題及び自由集会：4月1日(月)

②抄録原稿の提出期限：4月22日(月)

特別講演：15日(土) (14:00～15:00)

「韓国における産業保健の展望」

李昇漢教授（大韓産業保健協会名誉会長・カソリック医科大学名誉教授）

教育講演：15日(土) (15:00～18:00)

①「地域保健と職域保健の連携」

大久保利晃教授（産業医科大学副学長）

②「職場におけるアルコール問題とその対策」

竹元隆洋先生（指宿竹元病院 院長）

シンポジウム：14日(金) (15:00～17:30)

「働く女性の子育てとメンタルヘルス支援のあり方」

①行政の見地から

②法曹の見地から

③女性のPTSDと幼児虐待

④産業看護職の立場から

⑤産業医の立場から

指定発言：未定

自由集会：14日(金) (19:30～21:00)

15日(土) (16:00～18:00)

産業看護部会、その他

参加費：2,000円（会員以外の参加を歓迎します）

懇親会開催日時及び会費：14日(金) (18:00～19:30) 会費：5,000円

その他：特別講演、教育講演、シンポジウムについては、日本医師会認定産業医資格講習（単位取得）を申請予定

学会長：松下敏夫（鹿児島産業保健推進センター所長）

事務局：〒892-0842

鹿児島市東千石町1-38 アイムビル6F鹿児島産業保健推進センター内

平成14年度日本産業衛生学会九州地方事務局

TEL：099-223-8100 FAX：099-223-7100

E-mail: sanpo46@mui.biglobe.ne.jp ホームページ: <http://www1.biz.biglobe.ne.jp/~sanpo46/gakkai.htm>

○第12回日本産業衛生学会産業医・産業看護全国協議会のご案内

メインテーマ：「めぞう！産業保健と地域保健の連携」

日 時：平成14年10月25日(金) 16:00-、26日(土) 8:30-

会 場：熊本市産業文化会館（熊本市花畑町7-10）

主 催：社団法人 日本産業衛生学会 産業医部会・産業看護部会

企画運営委員長 小山 和作（日本赤十字社熊本健康管理センター所長）

プログラム（予定）

- 10月25日(金) 13:00-15:00 産業看護部会幹事会
15:00-16:00 産業医部会幹事会
16:00- 受 付
17:30-19:00 ワークショップ
①「事業所におけるメンタルヘルスの対応」
②「中小企業における産業保健活動」
③「若年労働者の健康管理はいかにあるべきか」
- 10月26日(土) 8:30- 受 付
9:00-10:00 特別記念講演「産業保健と地域保健の連携」
10:15-11:15 産業医部会総会・産業看護部会総会
11:20-12:00 ポスターセッション
12:00-13:00 合同幹事会
13:00-14:30 シンポジウム① 「産業保健活動をどう評価するか」
14:45-16:15 シンポジウム② 「健康日本21と産業保健活動」

参加費：学会員 6,000円（8月31日まで） 7,000円（9月1日以降） 学会員以外 8,000円

懇親会：10月25日(金) 19:30- 予定

事務局：日本赤十字社熊本健康管理センター 企画開発課内

〒862-8528 熊本市長嶺南2-1-1

TEL：096-384-2111（内8234） FAX：096-387-8278

日本産業衛生学会専門医紹介

今回は平成13年度に取得された九州地方会の方をお願いしております。（以下登録番号順に紹介）

産業医学が目指すもの

産業医科大学産業医実務研修センター

内 田 和 彦（専門医登録番号107）

このたび無事、日本産業衛生学会の専門医試験に合格することができました。関係の諸先生方にはこの場を借りて厚くお礼申し上げます。これでなんとか1人前の「産業医」として社会に奉仕・貢献できるのではないかと自分に期待しておりますが、その一方でまだまだ学ぶべきことが多いなあ、と多少不安も覚えております。それは産業医として産業医学の目標に向かって実践して行く場合、それ

が企業経営者側、従業員側、組合側、医療従事者側などなど立場によって目標、目的が異なる現象として見える場合が往々にしてあり、自己研鑽を怠っているとあるべき本来の自分の姿を見失いかねない、という危機感を常に感じるからです。驚くほど早いスピードで変革する現代社会の中で、企業の存在意義、役割も大きく変化し、またそこに働く人々の働きがい、価値観も変化していています。もしかしたら産業医学の目標も大きく変化していているのかもしれませんが、時代に適した最善の産業保健サービスの提供ができるように、これからも精一杯頑張っていきたいと思っておりますので、今後ともご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

産業保健との出会い

産業医科大学 臨床疫学教室

溝上 哲也 (専門医登録番号108)

卒後臨床研修の時期に健診医として健診バスに乗り様々な職場を訪ねたことが、産業保健との最初の出会いです。北九州市内には第2次産業の中規模事業所が多くあります。作業場から真っ黒な顔で健診を受けにこられることもあり、作業場と労働者が一体となった中小企業の実態を垣間見ることができました。血圧が200を超える人や尿糖が毎年でていても医療機関を受診していない人がいると、この人にとっては健診の場が唯一の保健サービスに接する機会だと、後ろに並ぶ人の列を気にしながらも、受診の必要性を説明していたように思います。

嘱託産業医として活動するようになってからは、「場の管理」にも目がいくようになりました。職場環境には事業主の考えや労働者の創意工夫が生かされていることに気づきますが、その改善に産業医としての考えを聞いてもらえるようになったのはずいぶん経ってからです。知識をぶつけ解決を迫ることから、共通の理解を深めることをこころがけるようになってからでしょうか。

産業医の実務に携わって10年が過ぎます。この間、職場巡視の機会に企業の安全衛生担当の方には教えていただくことも多々ありました。最近、これまでご一緒してきた方が相次いで退職され、淋しく思いました。経験が浅い産業医の意見を尊重していただいたことに感謝し、また健診バスに乗り始めた頃の新鮮さを忘れず、これからも働く人の保健活動に取り組んで参りたいと思っております。

産業医活動から研究のテーマを

産業医科大学 呼吸病態学教室

森本 泰夫 (専門医登録番号120)

昭和61年に鹿児島大学を卒業後、産業医科大学にて8年間の呼吸器内科医を経験後、研究所に所属し、嘱託産業医として、主に、煉瓦製造業やその応援企業に従事してきました。この企業では、私を含め6名の嘱託産業医からなり、各々役割分担をもち、問題を共有してきました。ここで、いかに問題を提議し、どのように解決するかを学び、日々実践することが、今日の産業医活動のベースになっている

と思います。また、陸上部の健康管理も担当しています。血液検査や選手、監督との対話の中から、どのようにしたら充実した練習ができるかを念頭に、故障を少なくする健康管理をめざしています。

我々の教室“呼吸病態学研究室”では、新規化学物質による職業性肺疾患の早期発見及び予防するため、動物実験を用いたハザードアセスメントを展開しており、最近では、睡眠時無呼吸症候群に関する研究や痰を用いた職業性肺疾患のモニタリングの研究など企業と協力して行っています。現場の中から研究のテーマを求め、検討することをモットーにしております。また、喘息やアレルギー性肺炎など幅広く職業性肺疾患に取り組み、何ごとにも貪欲にトライしていくつもりです。よって、多くの産業医の先生方と連携をとり、より交流を深めていきたいと考えますので、今後ともご協力のほどお願い申し上げます。

また、教育に関して、嘱託産業医としての経験を医学生への講義に取り入れていたのですが、今回の試験を受けるにあたり、自分なりに知識の整理ができましたので、講義内容を整理し、広い視野からの確かな問題解決が行える教育をめざし、産業医の養成に貢献したいと思います。今後とも、ご指導ご鞭撻のほどお願い申し上げます。

産業医学専門医の抱負

財九州ヒューマンメディア創造センター

八幡 勝也 (専門医登録番号121)

この度、産業医専門医に合格しまして、今はホッとしています。専属産業医は10年以上前に経験していたのですが、その後産業医大で教育指導の側に回り、遅ればせながら受験いたしました。

今回の試験で自分なりに産業医学全般に亘り改めて整理し直すことができました。試験自体は過ぎ去ってみると大変だった記憶が、時間と共に次第に薄くはなってきていますが、いい経験でした。試験終了後、受験グループのメンバーは非常に仲良くなり、これを機会に同じ経験をした知り合いが増えたことが意外な喜びとなりました。

現在は、直接の産業医活動を行う場面は少なくなりましたが、産業医大作業病態学を中心に、以前にもまして産業医学にご協力させていただき所存です。

本部理事会報告及び地方会理事会報告

本部理事会報告

平成13年10月6日及び12月1日の理事会について報告する。

第77回日本産業衛生学会(2004年)は東海地方会の企画運営(委員長 井谷 徹教授)により名古屋市で開催することが決定した。また、第13回産業医産業看護全国協議会(2003年)は静岡県で鎌田 隆先生を企画運営委員長に開催することが決定した。

また懸案となっていた労働衛生関連法制度検討委員会の改革については、組織を抜本的に見直し、担当理事2名と専門性を考慮した委員10名の計12名で委員会を構成し、実質的な検討作業のためにワーキンググループを設置しメンバーは専門委員と位置づけ、事業計画と検討結果は理事会で審議することを骨子として、常置委員会の型で存続させることに決定した。

各種表彰に関して検討され、特に学会功労賞について議論が行われた。名誉会員及び現職の本部役員・地方会長を該当者から除き、永年にわたる活動を通じて本学会に顕著な貢献をされた方々を推薦する方向となった。

さらに2009年の国際労働衛生会議について、日本が立候補するべき状況になったことから、開催のための準備会を設立すること、開催場所をしばらくは必要があることが議せられた。

また、平成14年度から新しい任期を迎える役員選挙については、13年12月の理事長選挙をもって総て完了、新役員が決定する予定である。

その他、専門医制度委員会規則の一部改正、産業衛生技術部会規定の一部改正、公益法人の定期検査による改善勧告等について審議が行われた。(二塚 信理事)

九州地方会理事会報告

平成13年度第2回理事会が、平成13年12月22日(土)午後2時～4時の間、福岡産業保健推進センターにおいて開催された。出席者は、理事11名、監事2名、幹事2名、事務局1名、の計16名のもと開催された。議題は、

1. 平成13年度第1回理事会議事録要旨(案)の確認について
2. 平成13年度事業及び決算中間報告について
3. 平成14年度事業計画及び予算(案)について
4. 平成14年度地方会学会の開催について
5. 平成15年度地方会学会の開催地について
6. 地方会各理事分掌事項について
7. 日本産業衛生学会名誉会員・功労賞候補者推薦について
8. その他

であった。

今後平成14年度に開催が予定されている研究会は、第2回「失業と健康」研究会、第43回産業精神衛生研究会、労働者の生涯健康の支援を考える研究会、がある。

編集後記

謹賀新年。本年は、EU統一通貨ユーロの発行、中国のWTO加盟、我が国金融大改革の実施など更に波乱の幕明けとなりそうです。大久保地方会長から二塚会長へのバトンタッチの年でもあります。6年前、松下会長の発案により創刊された本誌は第11号を迎えるに至りました。今日まで御愛読頂きました読者諸氏並びに、御寄稿下さった会員、関係各位並びに地方会事務局の先生方の御支援の賜物とあらためて感謝申し上げます次第です。

創刊号に、「時代が激しく流れ、国際社会の枠組みや社会構造の転換が求められ、情報が氾濫している昨今、物と事の本質を読み取る覚めた目、時代の光を感じ取る感性、情熱とたゆまぬ努力、時代をリードする行動力で21世紀の産業医学の種子を蒔き、育てて行こう!」と書きましたが、もう一度このことを肝に銘じたいと思います。(三角順一)

九州地方会ニュース「産衛九州」

発行 平成14年1月1日

編集正責任者：三角 順一 (大分医科大学)
 編集副責任者：東 敏 昭 (産業医科大学)
 編集委員：青木 一 雄 (大分医科大学)
 青 山 公 治 (鹿児島大学)
 石 竹 達 也 (久留米大学)
 市 場 正 良 (佐賀医科大学)
 畝 博 (福岡大学)
 大 村 実 (九州大学)
 小 柳 敦 子 (日赤熊本健康管理センター)
 新 城 正 紀 (沖縄県立看護大学)
 永 田 耕 司 (長崎大学)
 日 笠 理 恵 (福岡県市町村職員共済組合)
 前 原 正 法 (宮崎医科大学)
 宮 北 隆 志 (熊本大学)
 吉 積 宏 治 (産業医科大学)

(五十音順)

〈編集事務局連絡先〉

〒879-5593 大分県大分郡挾間町医大ヶ丘1-1
 大分医科大学公衆・衛生医学(II)講座
 (担当：青木、工藤、園田)
 TEL (097) 586-5742
 FAX (097) 586-5749